

HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP

ソフトウェア リリースノート

バージョン: A.08.71 第2版

HP-UX, Sun Solaris



Manufacturing Part Number : PDF

2004年6月

© Copyright 1998-2004 Hewlett-Packard Development Company L.P.

ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 本書は内容について細心の注意をもって作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気付きの点がございましたら当社までお知らせください。
3. 当社は、お客様の誤った操作に起因する損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 当社では、本書に関して特殊目的に対する適合性、市場性などについては、一切の保証をいたしかねます。また、備品、性能などに関連した損傷についても保証いたしかねます。
5. 当社提供外のソフトウェアの使用や信頼性についての責任は負いかねます。
6. 本書の内容の一部または全部を、無断でコピーしたり、他のプログラム言語に翻訳することは法律で禁止されています。
7. 本製品パッケージとして提供した本書、フレキシブルディスクまたはテープカートリッジなどの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

All rights reserved.

Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause in DFARS 252.227-7013.

Hewlett-Packard Company
United States of America

Rights for non-DOD U.S. Government Departments and Agencies are as set forth in FAR 52.227-19(c)(1,2).

コピーライト

© Copyright 1998-2004 Hewlett-Packard Development Company L.P.

登録商標

Java は、米国における Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Microsoft® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows NT® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows® 2000 は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows®, MS Windows® および Windows NT® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Netscape および Netscape Navigator は、米国における Netscape Communications Corporation の商標です。

Oracle® 米国 California 州 Redwood City に所在する Oracle Corporation の登録商標です。

Oracle7 米国 California 州 Redwood City に所在する Oracle Corporation の商標です。

OSF/Motif® および Open Software Foundation® は、米国およびその他の国における the Open Software Foundation, Inc. の登録商標です。

Pentium® は、米国における Intel Corporation の登録商標です。

UNIX® は、米国における The Open Group の登録商標です。

出版履歴

マニュアルの出版の日付および部品番号は、現在の版を示します。出版の日付は、最新版ができるたびに更新します。内容の小さな変更に対しては、増刷の際に対応し、出版日の更新は行いません。マニュアルの部品番号は、改訂が行われるたびに更新します。

新版の作成は、記載内容の訂正またはドキュメント製品の変更にもなっています。お手元に最新版をお届けするためには、製品サポートサービスにご登録いただく必要があります。お手元のマニュアルが最新のものか否かは、担当の日本 HP の営業に確認してください。

表 1 出版日

英語版のバージョン	英語版の出版日	日本語版の出版日
A.08.10	2002 年 6 月	2002 年 9 月
A.08.50 Edition 2	2003 年 9 月	2003 年 9 月
A.08.50 Edition 3	2003 年 11 月	2003 年 11 月
A.08.71 Edition 2	2004 年 6 月	2004 年 6 月

原典

本書は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP Software Release Notes*』(June 2004)を翻訳したものです。

1 Smart Plug-in for SAP リリースノート

はじめに

以下の情報はバージョン A.08.71 の Smart Plug-in for SAP を対象としています。

HP OpenView Smart Plug-in は、対象プラットフォームにプラグインすることですぐにご利用可能な、高度に統合化されたソリューションであり、管理対象領域の業界をリードするビジネスでもご利用いただけるよう、インターネット、ミドルウェア、データベース、そして管理アプリケーションの観点から拡張します。HP OpenView プラットフォームの自然な拡張であるこのソリューションは、インフラやプロセスにおける無駄を排除しながらも HP OpenView ソリューション間の親和性や、セキュリティ、スケーラビリティを活用できる、密に統合されたモジュールにより構成されています。

HP OpenView Smart Plug-in for SAP (SPI for SAP) により SAP R/3 分散システムにおける可用性とパフォーマンスを集中的に管理する能力が得られます。

SAP R/3 のエンドユーザーが業務を順調に遂行できるかどうかは、R/3 サービスの可用性にかかっています。これらのサービスは当然ビジネスにおいて非常に重要であり、IT 部門およびその事業部門ユーザにとっての挑戦は、いつでも必要なときに R/3 サービスが利用できることを実現することです。この目的を達成するためには、数多くの要素、つまり R/3 プログラム、アプリケーションサーバー、オペレーティングシステム、データベースサーバー、LAN、WAN、ルーター、ブリッジ、およびハブなどを併せて駆使しなければなりません。

Smart Plug-in for SAP は、R/3 サービスの提供を確実にする上で必要な IT 要素をすべて管理できるよう、HP OpenView を拡張するものです。さらに、IT 環境全体の管理に使用できるだけでなく、さまざまなビジネスクリティカルアプリケーションをも管理できます。いわゆる R/3 専用の管理製品とは異なり、HP の手法により皆様のシステム管理に対するニーズのすべてを統合することが可能です。

『HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP ソフトウェア リリースノート』では以下の内容について説明します。

- 6 ページの「このバージョンの機能」
- 10 ページの「既知の問題と対策」
- 21 ページの「誤記」
- 23 ページの「互換性に関する情報とインストール要件」
- 26 ページの「このバージョンのパッチおよび修正点」
- 27 ページの「ソフトウェアの母国語対応について」

このバージョンの機能

Smart Plug-in for SAP では、以下の機能が追加および強化されています。

OV Reporter の以下のバージョンのサポート：

現在 SPI for SAP がサポートしているのは、Crystal Report Templates バージョン 8.5 を使用する OV Reporter バージョン A.03.50 だけです。

Solution Manager の統合による SAP R/3 と OVO の間の双方向通信の提供：

OVO メッセージを CCMS モニタ ツリーに直接書き込みます。

Solution Manager プロセス ステップに割り当てられた CCMS アラートを監視し、そのアラートを使ってメッセージを生成します。このメッセージは OVO メッセージブラウザに表示されます。

SAP トランスポートの命名規則：

リリース A.08.71 は、SAP ネーム スペース「/HPOV/」の SPI for SAP 機能を含む SAP バージョン 4.6x 以降に転送機能を提供する SPI for SAP の初めてのバージョンです。

ローカライズ版ソフトウェアのバージョン：

SPI for SAP の バージョン A.08.71 は、日本語に対応しています。詳細は、27 ページの「ソフトウェアの母国語対応について」を参照してください。

新しいアラート モニタとアラート収集：

r3monrfc

新しいモニタ r3monrfc は、アプリケーション サーバーに依存せず、SAP 環境での RFC 宛先をチェックします。SAP は RFC 宛先を使って、別の SAP システムに存在する機能モジュールをリモートで実行します。

r3mondev31、r3monpro31、および r3monxmi31

新しいモニタ r3mondev31、r3monpro31、および r3monxmi31 は、それぞれ、SAP 3.1 システム上のトレース ファイル、プロセス、およびシステム ログを監視するためのものです。これらの新しいモニタは、既存の SAP 4.x モニタ (r3mondev、r3monpro、および r3monxmi) に似ていますが、異なるバイナリを使っています。

新しいアプリケーションとアプリケーション グループ：

RFC 宛先モニタ

この新しいアプリケーションを使って、新しい RFC 宛先モニタの設定を行うことができます。RFC Dest. Monitor アプリケーションは、SAP R/3 Admin と SAP R/3 Admin Local の両方のアプリケーション グループに表示されます。

r3ovo2ccms

OVO メッセージを直接 CCMS ツリーに書き込むには、r3ovo2ccms コマンドを使用します。OVO メッセージは CCMS ツリーに表示され、SAP Solution Manager は OVO メッセージを他の SAP アラートと同じように扱うことができます。

詳細は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストール ガイド*』を参照してください。

新しいメッセージ グループ:

R3_RFC

新しいメッセージ グループ R3_RFC は、SAP Administrator および SAP Operator という SPI for SAP ユーザー プロファイルに割り当てられ、RFC 宛先モニタ r3monrfc が報告する警告に関するメッセージに対応します。r3monrfc モニタおよびその設定方法の詳細は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP システム管理リファレンス ガイド*』を参照してください。新しい OVO オブジェクトの RFC_Destination は、新しいメッセージ グループ R3_RFC に関連付けられることに注意してください。

メッセージの内容の改善:

SPI for SAP で生成されるメッセージには、以下のような情報が含まれるようになりました。

メッセージの送信元モニタ

メッセージの送信元モニタが実行されているサーバーのホスト名または、リモートの監視対象ノードの場合は、障害が検出されたサーバーのホスト名

メッセージとサービス ツリー間のマッピングの改善

「condition」および「set」のメッセージテキストの両方に、ユーザーと日付の情報を追加。r3monxmi モニタの重複メッセージの抑制機能により、メッセージの抑制または表示に応じて、これらの属性の包含 / 除外が可能。

新規および名称変更されたテンプレートとテンプレート グループ:

r3monrfc

Smart Plug-in for SAP リリースノート このバージョンの機能

SAP-RFC モニタ r3monrfc は、アプリケーション サーバーに依存せず、SAP 4.6x (以降) の環境での RFC 宛先をチェックします。SAP は RFC 宛先を使って、別の SAP システムに存在する機能モジュールをリモートで実行します。この新しいテンプレートが表示されるのは、SAP R/3 4.6/6.x CentralInstance のポリシー グループだけです。

r3mondev31、r3monpro31、および r3monxmi31

新しいテンプレート r3mondev31、r3monpro31、および r3monxmi31 は、それぞれ、SAP 3.1 システム上のトレース ファイル、プロセス、およびシステム ログを監視するためのものです。これらの新しいテンプレートは、次の両方のポリシー グループに表示されます。

SAP R/3 3.1I AppServer

SAP R/3 3.1I CentralInstance

パフォーマンス モニタの強化：

SAP Internet Communication Manager 用モニタの追加

SAP ステータス モニタの改善

ステータス モニタは、SAP システムが停止している理由 (たとえば、本当に停止しているのか、単にアクセスできないのか、ユーザー ログインに問題があるのか) を突き止めようと試みるようになりました。

レポートング コンポーネントと新機能：

SAP Internet Communication Manager のステータス レポートとパフォーマンス レポートの追加

サービス管理に関する以下の改善：

メッセージとサービスとのマッピング

詳細は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストール ガイド*』の「SPI for SAP に対する変更」の項を参照してください。

高可用性環境で稼働中の SAP R/3 インスタンスの監視の改善

SPI for SAP は、ホスト マッピング機能を使って、高可用性クラスタ内の SAP R/3 を監視します。ホスト マッピング機能の詳細は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストール ガイド*』を参照してください。

OpenView Internet Services (OVIS) プロンプによる SAP の可用性のチェック

OVIS プローブを SPI for SAP の固有のステータス モニタと同時に使用して、UN*X または MS Windows プラットフォームで実行中の SAP Application Server の可用性を調べることができます。OVIS プローブは、SAP システムまたはユーザー固有の SAP トランザクションに関連した情報を要求して使用できます。

OVIS に付属の SAP プローブが SAP の機能にアクセスするには、既存の SAP ユーザーである必要があります。OVIS プローブおよび SPI for SAP を利用する SAP ユーザーのセットアップ方法については、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストール ガイド*』を参照してください。

既知の問題と対策

この項では、SAP for SAP ソフトウェアのリリース前に修正できなかった既知の問題を列挙します。

1. SAP GUI

- 現象： SAP for SAP に定義されるオペレータ起動アクションのほとんどで SAP GUI が必要となるにも関わらず、SAP GUI は SAP SPI インストールメディアの一部ではない問題。
- 対策： SAP の CD から OVO 管理サーバーに最新の SAP GUI バイナリをインストールします。SAP GUI バイナリは "Presentation Unix" CD に含まれています。『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』の「SAP GUI の OVO 管理サーバーへのインストール」を参照してください。

2. SAP R/3 64 ビットシステムの管理

- 現象： SAP R/3 64 ビットバージョンを監視すると、SAP for SAP モニタがエラーメッセージやコアダンプ、またはその両方が出力され、中止される。
- 対策： 共有ライブラリの使用状況によっては、同一 OS 上の 32 ビットおよび 64 ビット SAP システムに対し、異なるバイナリが必要となります。場合によっては、管理対象ノードのアーキテクチャ (32 ビットと 64 ビット) の自動検出が正常に動作しません。

検出は、モニタ バイナリの初期分配後に実行されます。検出されたバージョンは、管理対象ノード上の以下のファイルに保存されます。

HP-UX/Solaris:

```
/var/opt/OV/conf/hpitosap/sap_mode.cfg
```

AIX:

```
/var/lpp/OV/conf/hpitosap/sap_mode.cfg
```

以下のような環境は、設定ファイルに誤ったアーキテクチャが保存される原因となります。

SAP for SAP が 32 ビット SAP R/3 システムにインストールされ、後に 64 ビットにアップグレードされた場合。

前述の設定が存在しない場合に限り自動検出が実行されるため、アップグレードによる変更点が自動検出で検出されません。

この場合は設定ファイルを手動で編集し、正しいアーキテクチャを記述してください。設定内容を変更した後は、モニタおよびコマンドを管理対象ノードに再度分配してください。

3. r3monsap、r3monal、および r3monxmi を使用した場合のメッセージの重複

現象： 特定の環境下でメッセージが複数回報告される。

対策： r3monsap、r3monal、および r3monxmi の各モニタでは、監視される情報ソースが一部重複しています。それぞれのモニタは、異なるバージョンの CCMS アーキテクチャで操作するように設計されています。つまり、同一の SAP Instance に複数のモニタを割り当てると、メッセージの重複が発生する場合があります。『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP システム管理リファレンスガイド*』を参照し、監視する SAP R/3 バージョンと併用可能なモニタを調べ、別のモニタを再度割り当ててください。

4. r3monxmi がメッセージを送信しなかったり、メッセージの送信が必ず遅れてしまう問題

現象： r3monxmi モニタから送信されるメッセージが、特定の時間（数時間）分遅れて送信されたり、まったく送信されない場合があります。SAP の XMI API におけるタイムゾーン処理に問題があります。この API は、API を呼び出すユーザーのローカル時間、つまり opcagent プロセスを使用し、基本 SAP レポートで使用される開始時間と終了時間を設定します。このレポートは SAP R/3 アプリケーション サーバーで実行され、そのタイムゾーン設定により異なるローカル時間を持ちます。

アプリケーション サーバーのローカル時間が監視システムのローカル時間よりも遅れている場合は、レポートはメッセージを何も検出しません。

監視システムのローカル時間がアプリケーション サーバーのローカル時間よりも遅れている場合は、メッセージはこの時間差分で遅れて送信されます。

対策： 監視対象ノードの opcagent プロセスの時間および SAP Application Server が正しいタイムゾーンに設定され、適切に同期が取れていることを確認してください。

5. ユーザー モニタの値が SM04 の値と異なる

既知の問題と対策

- 現象： コレクタにより報告されるログインユーザー数が、SAP トランザクション **SM04** に表示されるユーザー数と異なる。
- 対策： この相違は、コレクタが「itouser」をログインしたユーザーとして数えることが原因で発生します。このため、2つのユーザー数に相違が生じます。

6. ホストを2度設定するとメッセージが重複し、パフォーマンスが低下する

- 現象： **snapshot** タイプのモニタが重複メッセージをメッセージブラウザに送信し、SPI for SAP のパフォーマンスが全体的に低下する。
- 対策： 設定ファイルのいずれかに複数の管理対象ノードが定義されているかどうかを確認します。たとえば、**sapsystem** などの短いホスト名を使用する一方で、**sapsystem.company.com** などの完全修飾名を使用している場合など。与えられた1つのホスト名に対して複数の項目を指定すると、モニタを呼び出すたびに、モニタバイナリが SAP R/3 システムに対し2つの接続を開いてしまう原因となります。
- 各システムは設定ファイル上で1度のみ設定しなければならず、また、完全修飾名で指定することをお勧めします。

7. モニタ時のパフォーマンスが低い

- 現象： SPI for SAP モニタが SAP R/3 システムから情報を取得するのに時間がかかりすぎる。
- 対策： 設定ファイルで CP (**Contains Pattern**) オプションを多用しているかどうかを確認してください。この CP オプションは時間とシステムリソースの双方を消費します。CP オプションは可能な限り EQ オプションで代用してください。代用が不可能である場合は、完全修飾された CP オプション (例：**CP***) の使用は避けてください。代わりに、1つの文字列パターンを使って CP オプションを修飾します (例：**CP MY_JOB***)。

8. AIX で SPI for mySAP.com が動作しない

- 現象： コマンドラインで開始すると、SPI for mySAP.com モニタは必ずしも動作するとは限らず、libC.a 関連のランタイムエラーが発生する。例：

```
# ./r3moncol
```

```
exec(): 0509-036 Cannot load program ./r3moncol because of  
the following errors:
```

```
0509-150  Dependent module /usr/lib/libC.a (ansi_64.o)
           could not be loaded.
0509-152  Member ansi_64.o is not found in archive
```

対策： AIX 4.3.3 (64bit) が実行されている管理対象ノードにおいて、ご使用の C++ ランタイム ライブラリを最新のパッチ レベルに更新する必要があります。SPI for mySAP.com モニタを実行可能にするには、レベル 5.0.0.0 以降のパッチ レベルが必要となります。lslpp -l コマンドとご使用の libC.a ライブラリを含む適切なファイルセットを使用し、ご使用のパッチ レベルを確認してください。以下に例を挙げます。

```
lslpp -l xlC.aix43.rte
```

このコマンドの実行結果は以下のように出力されます。

Fileset	Level	State	Description

Path: /usr/lib/objrepos			
xlC.aix43.rte	5.0.2.0	COMMITTED	C Set ++ Runtime AIX 4.3

9. AIX 5.1 (32 ビット) で SPI for mySAP.com モニタが動作しない

現象： AIX 5.1 上で 32 ビット SAP システムを実行する管理対象ノードで、SPI for mySAP.com アラートモニタ (r3monal、r3mondev、r3monpro、および r3monxmi) が正常に動作しない。モニタにより、SAP システムがダウンしているという間違った報告が行われたり、一般エラーメッセージが生成される。稀にモニタはコアダンプすることさえある。

対策： 32 ビット SAP システムの AIX 5.1 管理対象ノードに、正しい 32 ビット版 SPI for SAP モニタがインストールされ、設定されていることを確認してください。AIX 5.1 管理対象ノードの場合は、SAP モード設定ファイル sap_mode.cfg を修正することで、手動で SAP システムを 32 ビットとして指定することもできます。以下にその手順を示します。

- a. AIX 5.1 管理対象ノードでファイル
/var/lpp/OV/conf/hpitosap/sap_mode.cfg を開き、エントリ "32" (引用符は不要) を 1 行で追加します。このファイルに必要なエントリは 32 のみです。

- b. SPI for SAP モニタを、対象の AIX 5.1 管理対象ノードに再度配布します。これにより、SPI for SAP の 32 ビット モニタを使用して、AIX 5.1 (32 ビット) システム上で実行されている SAP システムを監視できるようにになります。

10. SPI for SAP サービス レポート エラー 534

現象： 一部の SPI for SAP レポートが見つからないか、空であると、ERROR 534 メッセージが OV Reporter ステータス ペインに表示される。

対策： この問題では 2 つの対策が考えられます。

- a. レポート データが見つからない場合 : OV Reporter Gather Data コマンドを再度実行してみてください。
- b. DBINFO_PERF パフォーマンス モニタが実行されているインスタンスを持つシステムが SAP R/3 レポート グループに存在しない場合は、DBINFO_PERF モニタにより収集されたデータ (以下に示します) を使用するすべての SPI for SAP サービス レポートを SAP R/3 Reports Group から割り当て解除する必要があります。

SAP R/3 Database Performance

SAP R/3 Database Quality

11. SPI for SAP サービス レポートが作成されない問題

現象： Oracle データベースでデータを使用するための設定をすると、OV Reporter でサービスレポートが作成されないか、空のレポートが作成される。一部のレポートが失われたり空であったりしても、OV Reporter ステータス ペインにエラー メッセージが表示されない。

対策： 対応するバージョンの Oracle ODBC ドライバが使用されていることを確認してください。SPI for SAP のパフォーマンス統合は、以下のバージョンの Oracle ODBC ドライバでテストされ、正常動作が確認されています。

8.1.66

8.1.76

9.0.13

12. WLSUM_PERF および DOCTSTAT パフォーマンス メトリック

現象： SPI for SAP の新しいモニタである DOCSTAT および WLSUM_PERF がデータを収集しない。

対策： mySAP.com パフォーマンス コンポーネントから有用なデータを取得するためには、SAP レポート RSCOLL00 を SAP R/3 システム で 1 時間に 1 回実行するようにスケジューリングする必要があります。mySAP.com コンポーネントの標準的なレポートやジョブのスケジューリング方法の詳細は、SAP OSS note 16083 を参照してください。

13. SAP ITS モニタ ログ ファイル

現象： ITS ログが時間の経過とともに非常に大きくなり、System パフォーマンスに影響を及ぼす。この問題は、一部のパフォーマンス データにアクセスするために、SPI for SAP が SAP 内のトレーシングをオンに切り替えるためです。

対策： 以下の ITS トレースおよびログ ファイルを定期的にチェックし、必要であれば削除したりバックアップしたりしてください。

```
<SAP_ITS_Install_Dir>\SAP\ITS\2.0\<INSTANCE_NAME>\traces  
<SAP_ITS_Install_Dir>\SAP\ITS\2.0\<INSTANCE_NAME>\log
```

14. SAP ITS セキュリティ

現象： ファイアウォールが設置されている環境で ITS モニタの使用を試みると、問題が発生する。

対策： SAP ITS の統合については SPI for SAP ホワイト ペーパーを参照してください。このホワイト ペーパーは、SPI for SAP を正常にインストールした後、OVO 管理サーバーの以下の場所に格納されます。

```
/opt/hpitosap/doc/sapspi_ITS_Firewall_WhitePaper.pdf
```

15. パフォーマンス モニタから統計データを取得できない

現象： SPI for SAP パフォーマンス モニタから提供される統計レコードが存在しない。

対策： すべてのログイン情報を r3itosap.cfg ファイルに追加した後、SAP システムに r3perfstat.cfg の設定が記述されていることを確認してください。r3itosap.cfg ファイルに保存した新しい設定を SAP システムに書き込むには、[VPO 登録ノード] ウィンドウで適切な SAP システムを選択し、[VPO 登録アプリケーション] ウィンドウの [SAP R/3 Admin] アプリケーション グループで統計記録アプリケーションを実行します。

16. SPI for SAP サービスレポート統合のインストール エラー

現象： 2GB 以上のメモリーを搭載するマシンで、SPI for SAP レポート統合パッケージのインストールが、"insufficient memory" エラーで中断される。

対策： これはインストールシールドの問題です。次のように `-z option` オプションを使用すると、SPI for SAP レポート統合パッケージのインストール時のメモリーチェックを無効にできます。

```
setup.exe -z
```

17. サービス検出では、Windows NT4 ノードに WSH と WMI のインストールが必要 (Windows NT4 ノードの場合)

現象： Windows NT4 管理対象ノードで、アプリケーション R/3 Info および R/3 サービス検出が動作せず、インストールされている R/3 システムが検出されない。

対策： アプリケーション R/3 Info と R/3 サービス検出では、SAP 環境を検出するために、Windows Scripting Host (WSH) 5.1 以降および Windows Management Instrumentation (WMI) が必要です。Windows 2000 以降では Windows Scripting Host と Windows Management Instrumentation はオペレーティングシステムに組み込まれていますが、NT4 ではこれらのコンポーネントは含まれていないため、Microsoft の Web サイトからダウンロードする必要があります。

何らかの理由でこれらの 2 つのコンポーネントをインストールしない場合、サービス ディスカバリ ツールを使用するには、SPI for SAP サービス ディスカバリにおけるこの検出処理を強制的に省略することができます。これには、SAP SID およびサービスに関する情報が格納されている SAP プロファイルディレクトリのパスを明示的に設定します。管理対象ノードで、環境変数 SAPOPC_SAPPROFILEDIR をたとえば `F:\usr\sap\DEV\SYS\profile` のように設定します。この変数を設定すると、WSH と WMI を必要とする検出処理が省略されます。

18. SPI for SAP アプリケーション "Move SAP Transports" が、Sun Solaris 管理対象ノードで動作しない

現象： SPI for SAP アプリケーション Move SAP Transports が Sun Solaris 管理対象ノードで動作せず、エラーであることも示されない。この障害により、R3Trans.car ファイルが管理対象ノードに転送されない。

対策： この問題は、Sun Solaris 管理対象ノードで、ディレクトリ /usr/sap が別のディレクトリのシンボリックリンクである場合に発生します（例：/usr/sap -> /<...>/usr/sap）。この場合、基本ツールである r3itomvtra が R3Trans.car ファイルの転送先を正しく認識できません。ftp などを使用して、R3Trans.car ファイルを対象の Sun Solaris 管理対象ノードに手動で転送してください。

19. サービス検出で MS Windows 管理ノード上の SAP インスタンスを検出できない

現象： サービス検出アプリケーション r3sd が管理ノードのシステム アカウントで動いていて、SAP インストール ディレクトリが UNC の構文（「\\server_name\...」など）で指定されている場合、r3sd が MS Windows 管理ノード上にインストールされた SAP インスタンスを検出できない。R3-Info アプリケーションでも同様の問題が発生する。実行は終了するが何も出力されない。

対策： 環境変数 SAPOPC_SAPPROFILEDIR を使ってインストールした SAP のローカルパスを指定するか（SAP セントラルインスタンスでのみ可能）、UNC 表記を使ってネットワークパスにアクセスできるように、別のユーザー アカウントで OVO エージェントを実行するように設定します。

20. サービス検出で MS Windows 管理ノード上の SAP アプリケーション サーバーを検出できない

現象： MS Windows が動いている SAP システムで、SAP インストール ディレクトリが「¥exe¥run」で終わっていない場合、アプリケーション サーバーが検出されない。

対策： 環境変数 SAPOPC_SAPPROFILEDIR を使って、SAP をインストールした正しいディレクトリを MS Windows システム上で明示的に設定します。

21. OVO 高可用性クラスタにおける SPI for SAP

現象： SPI for SAP の現在のバージョンのドキュメントには、高可用性クラスタで実行するよう設定された OVO 管理サーバー上に SPI for SAP をインストールおよび設定するための情報が含まれていない。その代わりに、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』では、高可用性クラスタで動く OVO 管理ノード（SAP サーバー）を監視するよう SPI for SAP を設定するための情報だけを、集中的に提供している。

対策：

以下では、高可用性クラスタで稼動する OVO 管理サーバー上に SPI for SAP をセットアップする方法の概要を説明します。SPI for SAP モニタ設定ファイルを共有ディスクに移すことで、高可用性クラスタのどのノードで OVO 管理サーバーが稼動しているかに関わらず、SPI for SAP 設定の一貫性を保証することができます。

- a. 『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』のインストール手順を実行します。ここでは、高可用性クラスタの各ノードに SPI for SAP をインストール、セットアップする方法を説明しています。
- b. SPI for SAP の設定では r3itocus を使うなどして設定ファイルを変更しますが、その設定を始める前に、共有ディスク上のディレクトリを選択し（例：/var/opt/OV/share）、設定用のサブディレクトリ（例：「sapspi」）を作成します。
- c. 修正を行っていない SPI for SAP 設定ファイルを、クラスタ ノードの 1 つから共有ディスク上の新しい場所に移動します。

/opt/hpitosap/config/* とそのサブディレクトリ以下の内容を新しい場所に移動します。これには、cmds および monitor のサブディレクトリと、それぞれの下のファイルが含まれます。

共有ディスク上の新しいディレクトリ構造は以下のようになります。

```
/var/opt/OV/share/<new_dir>/cmds/...
```

```
/var/opt/OV/share/<new_dir>/monitor/...
```

- d. OVO 管理サーバー上（各クラスタ ノード上）の config ディレクトリを削除し、その代わりに、OVO 管理サーバーから共有ディスク上に新しく作成した設定ディレクトリへのシンボリックリンクを以下のように作成します。

```
/opt/hpitosap/config -> /var/opt/OV/share/<new_dir>
```

- e. 『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』の説明に従って、OVO 管理サーバー上で SPI for SAP のインストールを続けてください。

22. SPI for SAP のユーザー ロール トランスポートは RFC 認可プロファイルが含まれない

現象：アラート収集モニタ r3moncol と r3monxmi、r3monal(XAL インタフェースが有効時)は、ユーザー ロール /HPOV/SAPSPI_MONITORING を使用した SAP ユーザー「ITOUSER」として、SAP にログオンできない。

対策：ユーザー ロールが修正済みの更新された SPI for SAP 移送ファイルは、HP サポートから入手できます。

一方、ユーザー「ITOUSER」に「SAP_BC_BASIS_ADMIN」を割り当てるか、またはプロファイルの生成に /su02 を使用して以下のオブジェクトを割り当てます。

S_RFC (S_RFC_ALL の認可と共に)

S_RFC_TAB, S_C_FUNCT, and S_DATASET (&_SAP_ALL の認可と共に)

新しいプロファイルを有効にしたあとは、そのプロファイルを SPI for SAP ユーザー「ITOUSER」に割り当てます。この割り当ては Syslog モニタの S_XMI_ALL プロファイルの追加になることに注意してください。

23. TemSe モニタの短い形式のダンプの作成

現象：TemSe モニタは、ランタイム エラーを引き起こし SAP システム内に ABAP ダンプを生成する、存在しない機能モジュールをコールする。

対策：TemSe モニタが修正済みの SPI for SAP 移送ファイルは、HP サポートから入手できます。

24. トレース機能が無効時の r3monal コアダンプ

現象：SPI for SAP の CCMS モニタ「r3monal」は、トレース機能がオフの時はメッセージブラウザに一切メッセージを送信しない。そのかわりに、監視を開始した後に表示されたメッセージは次のように監視の失敗を表す。

```
Script for monitor 'r3monal' failed.  
Error message: 'sh: 9107 Memory fault (coredump)'.
```

対策：修正済みの r3monal バイナリは、HP サポートから入手できます。

一方、モニタ設定ファイルに以下のエントリを含めて r3monal モニタのトレース機能を有効にする必要があります。

```
TraceLevel =ALL =1
```

SAP サーバーに変更を分配して、すべてのローカル設定の更新も確認してください。トレース ファイルの内容はモニタ起動ごとに上書きされています。

25. 起動時の Sun Solaris 上での r3ovodec コアダンプ

- 現象： Sun Solaris 上で稼動している OVO 管理サーバーで r3itosap.cfg ファイルの設定に r3itocus を使用する時、暗号化ルーチンは r3itosap.cfg ファイルで SAP ユーザーのパスワードの暗号化を開始する。暗号化プロセスは r3ovodec プログラムを使用し、SIGSEGV で失敗する。
- 対策： Sun Solaris の修正済みの r3ovodec バイナリは、HP サポートから入手できます。

誤記

この項では、現行の **SPI for SAP** の製品ドキュメントの誤記や脱落のうち、印刷の時点までに修正することができなかつた内容について記述します。

1. 高可用性クラスタにおける SAP システム

- 場所： 『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストール ガイド*』
57 ページの図 3-1 「r3itosap.cfg ファイルの例」
- 現象： 高可用性クラスタ内の管理ノードのホスト名、SAP システム、SAP 番号、SAP クライアントについて **HostSapAssign** セクションに表示された情報が、**HostMapping** セクションのリストに表示されたホスト名と一致していない。
- 対策： **HostSapAssign** セクションに表示された、SAP システム、SAP 番号、SAP クライアントなどの SAP 情報は、高可用性クラスタ内の全管理ノードと一致しなければなりません。つまりこの例では、それぞれ =CTO、=11、=001 となります。高可用性クラスタの **HostSapAssign** セクションに指定されたホスト名も、**HostMapping** セクションのホスト名に一致しなければなりません。

図 1-1r3itosap.cfg ファイルの例

```

Configure SAP R/3 login information for GUI sessions (r3itosap.cfg)
#-----
#
#           hostname                SAP      SAP      SAP      SAP      SAP      SAP      Hardware
#           System Number          Client  User     Password Lang   [UX,NT]
# Examples:
#HostSapAssign  =hpbbcpo5.bbn.hp.com  =LPO    =00     =099    =default =default =default =UX
#HostSapAssign  =hpbbsap2.bbn.hp.com  =BNT    =00     =001    =default =default =default =NT
#HostSapAssign  =isoit342.bbn.hp.com  =IMD    =00     =002    =default =default =default =NT
#HostSapAssign  =isoit270.bbn.hp.com  =CTO    =00     =001    =default =default =default =NT
# Example for SAP R/3 3.x
#HostSapAssign  =hpbbcpo5.bbn.hp.com  =LPO    =00     =001    =user1   =pass1   =E       =UX
# Example for SAP R/3 4.x
#HostSapAssign  =hpbbcpo5.bbn.hp.com  =LPO    =00     =001    =user1   =pass1   =EN      =UX
#-----
#
# host mapping for SAP Systems in high availability environments
#           SAP      SAP      SAP
#           System Number physical hostnames,SAPLOCALHOST parameter          OVO
#           message hostname
#
#HostMapping =CTO    =11    =isoit270.hp.com,isoit342.hp.com,sapclust.hp.com  =sapclust.hp.com

```

2. アラート収集 : TEMSE モニタ

- 場所 : 『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP システム管理リファレンスガイド*』の「TEMSE ファイルの監視方法」
- 現象 : 提供される情報は、監視する SAP のインストールバージョンに依るレポートの名前が明確ではない。
- 対策 : TemSe モニタを起動するには、次に示すように、SAP R/3 にレポートのジョブをセットアップする必要があります (レポートの名前とパッチは監視する SAP のバージョンに依存します)。

SAP R/3 4.6 より前 : ZHPSPIT1

SAP R/3 4.6 以降 : /HPOV/ZHPSPIT1

互換性に関する情報とインストール要件

この項では、Smart Plug-in for SAP の A.08.71 をインストールする前に、管理サーバーおよび管理対象ノードにおいて満たさなければならないソフトウェアおよびハードウェア要件を記述します。以下の内容に関する情報を取得できます。

23 ページの「ハードウェア、OS、およびディスク容量の要件」

24 ページの「互換性があるソフトウェア バージョン」

25 ページの「SAP R/3 トランSPORT番号」

ハードウェア、OS、およびディスク容量の要件

この表では、管理サーバーおよび管理対象ノードにおける SPI for SAP のハードウェア、オペレーティング システム、およびディスク容量の要件について詳しく記述します。

表 1-1 ハードウェア、OS、およびディスク容量の要件

製品	ハードウェアおよび OS	ディスク容量
OVO 管理サーバーの SPI for SAP	HP 9000 シリーズ 800 - HP-UX 11.00 および 11i ^a Sun SPARC - Solaris 7、8、9	600 MB
OVO 管理対象ノードの SPI for SAP	HP 9000 Series 800 - HP-UX 11.00、または 11i ^b Intel - Windows NT 4 (SP5 以降)、Windows 2000、および Windows 2003 IBM RS/6000 - AIX 4.3.3、5.1、および 5.2 ^b Sun SPARC - Solaris 7、8、9 ^b	40-110 MB

a. このマニュアルでは、HP-UX 11.11 の同義語として一般に HP-UX 11i (Rev 1.0) を使用します。

b. AIX 4.3.3 および 5.x、HP-UX 11、Solaris 7、8、および 9 のみ 64 ビット、その他は 32 ビット。SPI for SAP では、同一ノード上で 32 ビットおよび 64 ビットの SAP R/3 インスタンスを併用できない点にご注意ください。

互換性があるソフトウェア バージョン

表 1-2 に、現行の SPI for SAP と互換性があるソフトウェア パッケージのバージョンについて詳しく記述します。

表 1-2 互換性があるソフトウェア バージョン

製品	バージョン	OS プラットフォーム	SAP R/3 カーネル (ベース) のバージョン ^a
OVO エージェント	6.00、7.00、および 7.10 ^b	HP-UX 11.00、11i ^c	3.1I (3.1H/I) ^d
		MS Windows NT 4 (SP 4 以降)、Windows 2000、および Windows 2003	4.0B (4.0B) ^d 4.5B (4.5B) 4.6B (4.6B)
		Solaris 7、8、および 9	4.6C (4.6C)
		AIX 4.3.3、5.1、および 5.2	4.6D ^e (4.6C)
			6.10 (6.10/6.20) ^f 6.20 (6.20) ^f

- AIX 4.3.3 および 5.x、HP-UX 11、Solaris 7、8、および 9 のみ 64 ビット、その他は 32 ビット。SPI for SAP では、同一ノード上で 32 ビットおよび 64 ビットの SAP R/3 インスタンスを併用できない点にご注意ください。
- OVO 7.10 プラットフォーム リリースには新しい機能は含まれません。
- このマニュアルでは、HP-UX 11.11 の同義語として一般に HP-UX 11i (Rev 1.0) を使用します。
- 管理ノードのすべてのプラットフォームでサポートされているわけではありません。詳細は『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』を参照してください。
- SAP 社によると、SAP4.6D は完全な SAP R/3 リリースではなく、主に他の mySAP.com コンポーネントで利用されることを目的とした下位互換性を持つカーネルであるとのこと。この 4.6D カーネルは SAP R/3 4.6C Service Release 1 以降の SAP R/3 とともに出荷されています。
- バージョン番号付けシステムの変更を反映したもの。SAP R/3 ベーシスのバージョン (カーネルのバージョン)。たとえば、SAP R/3 ベーシス 6.10 (SAP R/3 カーネル 6.10 または 6.20)。

SAP R/3 トランスポート番号

現行のトランスポート番号の一覧については、SPI for SAP ソフトウェアをインストールした後、管理サーバー上の以下のファイルを参照してください。

/opt/hpitosap/trans/readme

SAP トランスポートをインポートする場合には、以下の点に注意してください。

日本語テキストシンボルをインポートしなければならないのは、日本語版 SAP R/3 システムを使っている場合だけです。

ユーザーロールは SAP R/3 4.6B では使用できません。4.6C 以降でのみ使用可能です。

このバージョンのパッチおよび修正点

この項では、SPI for SAP ソフトウェアの現在または以前のバージョンに関する問題に対処するために導入されたパッチおよび修正点について説明します。現在、Smart Plug-in for SAP A.08.71 用のパッチは存在しません。

1. パッチ

PHSS_29227(SPI for SAP A.08.51)に含まれていた修正点はすべて、SPI for SAP のこのリリースに組み込まれています。

2. SPI for SAP パフォーマンス収集

監視対象の SAP システムがバージョン 4.6 以降の場合に、SPI for SAP パフォーマンス収集で end-to-end 応答時間の STATRECS_PERF が無限ループに陥り、ハングするという問題は、修正されています。

ソフトウェアの母国語対応について

この項では、英語以外の言語環境のサポートについて説明します。

SPI for SAP A.08.71 は、英語および日本語の言語環境をサポートしています。

SPI for SAP A.08.71 の日本語バージョンは以下の環境をサポートします。

日本語版オペレーティング システム

日本語版 OpenView Operations for UNIX

日本語版 SAP

SPI for SAP A.08.71 の日本語バージョンは、以下の日本語化された要素も提供します。

日本語のメッセージテキスト

アプリケーション ボタンの日本語ラベル

日本語のドキュメント

ドキュメントは **ftp** を介してのみご利用いただくことができます。詳細は、最寄りの当社営業所にお問い合わせください。日本語のドキュメントは、**2004** 年の第 **2** 四半期に提供できる予定です。

日本語環境を有効にするには、インストール プロセス中に以下の手順を実行する必要があります。

1. `r3itoin` スクリプトを実行するシェルで、`LANG` 変数を以下のように設定してエクスポートします。

HP-UX: **ja_JP.SJIS**

Solaris: **ja_JP.PCK**

2. `/opt/hpitosap/install/r3itoin` スクリプトを実行し、日本語統合をロードするかどうか尋ねられたら、**Yes** と入力します。
3. 管理対象ノード (SAP サーバー) に、SPI for SAP トランスポート ファイル `/opt/hpitosap/trans/readme` に示されている追加の日本語のトランスポートを適用します。『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』の「SAP トランスポートの適用」の項で説明されている手順も参照し、実行する必要があります。

Smart Plug-in for SAP リリースノート
ソフトウェアの母国語対応について